

第 24 回 炉物理部会総会議事録

日時：9月14日（水）（2005年秋の大会第2日目）12:00～13:00

場所：八戸工業大学 教養棟 講義室 G201（学会 E 会場）

I 報告事項

1. 企画委員会（石川委員）

・7月1日より、旧企画委員会が改組され、企画委員会と部会等運営委員会が発足したことが報告された。17年度部会等運営委員として青木繁明氏を推薦、承認された。

2. 部会等運営委員会（青木委員、山根部会長）

・学会のプログラム編成、日韓サマースクール等に関して活動していることが報告された（詳細はメールにて報告済みである）。

3. 編集委員会（中島委員）

・以下の報告がなされた。

(1) 分類番号が変わり、わかりやすくなった。

(2) 最近、投稿数が増えている。また、特集号の企画も増えている。

(3) 査読システムの電子化が進行中である。

(4) 学会誌の記事について、提案を募集している。

・学会編集委員会と部会の窓口を務める「部会担当編集委員」には、編集委員のうち3年目の委員で充てることを確認した。

4. 炉物理委員会（岡嶋委員）

・炉物理研究会 WP の活動について、報告があった。

II 17年度 部会活動中間報告

1. 拡大幹事会（山根部会長）

・次回の炉物理夏期セミナーの幹事は京大炉に決定。京大炉の代谷教授より、テーマ提案の募集をしていること、開催場所は淡路島、倉敷、敦賀を検討中であること、開催時期はお盆前ころを考えていることが報告された。

・プログラム編成委員を増員する必要が生じたので、松本英樹氏に要請したことが報告さ

れた。

2. 財務小委員会（中島前委員）

- ・予算収支について中間報告がなされた（資料配付）。

3. 編集小委員会（吉岡委員）

- ・炉物理夏期セミナーの報告を準備中であることが報告された。

4. セミナー小委員会（小原委員）

- ・2005年8月9日～8月11日に、栃木県日光市の「ホテル清晃苑」で行われた第37回炉物理夏期セミナーの開催報告と、その収支決算報告がなされた（資料配付）。出席者は52名であった。

5. 学術交流小委員会（深堀委員）

- ・「核データ・炉物理研究と社会の係わり」について、委員会設立のための準備委員会（石川委員と深堀委員）が設立されたことが承認された。
- ・日韓夏期セミナーを80名規模（日韓それぞれ40程度）で7月23-27日東海村のリコッティで開催された。来年は、大田（テジョン）で開催される予定であることが報告された。

6. 学生・若手小委員会（木村委員）

- ・9月14日の19時より、居酒屋「呑気家」にて、懇親会が開催されることが通知された。
- ・炉物理夏期セミナーにおける若手発表会で、学生3名の発表があったことが報告された。

7. HP担当幹事（奥村委員）

- ・JAERIとJNCの統合に伴い、部会ホームページのアドレスは変更になるが、学会ホームページからはリンクされることが報告された。
- ・JAERIとJNCの統合等により、メールアドレスが変更となった部会員は、学会事務局にアドレスの変更を報告すると、部会のメーリングリストが更新される。

III 審議事項

1. 部会等運営委員会の新設に伴う規約の改正

- ・規約の改正：部会等運営委員会の新設に伴い、字句が変更された。

・内規の改正：部会等運営委員会の新設に伴い、部会選出委員の任期について以下のように変更された。

- (1) 炉物理部会の「部会等運営委員会」担当委員は、任期 2 年とする。
- (2) 2 年目の委員を生とし、1 年目の委員を副とする。
- (3) 正委員は、部会等運営委員会に出席する。
- (4) 副委員は、正委員を補佐する。

2. フェロー会員の推薦方式

・これまで、部会としてフェロー会員の推薦は消極的であったが、今後はフェロー会員の推薦を以下の手順で行う。

- (1) 部会長が運営委員会の議を経て候補者を選定する。
- (2) 候補者の受諾の意志を確認する。
- (3) 原子力学会の秋の大会時の炉物理部会総会で承認を得る。

この方式は原則として承認されたが、暫く意見の申し出を待って、今年度中に決定することとした。

3. 部会表彰制度

- ・若手（35 歳まで）の奨励を目的とした部会賞の新設が報告された。
- ・推薦方法の骨子は、以下の通りである。

- (1) 毎年度、表彰者は 3 名以内とする。
- (2) HP 上で公募し、応募は自薦、他薦を問わない。

(3) 選定委員会を、部会長、庶務幹事、その他の運営委員 2 名で構成し、候補者を選定する。この方式は原則として承認されたが、暫く意見の申し出を待って、今年度中に決定することとした。

4. 部会報「炉物理の研究」の配布方法

・部会報のペーパーレス化に関する調査結果が報告された。その結果、印刷物の送付が必要な部会員数は 5 名 (+ α) であることが判明した。編集小委員会の負担増加が懸念されるが、簡易製本により 1 部数千円で作成可能であり、印刷費の大幅削減が見込める。今回は現状報告であり、次回総会で対応を決定する。

5. その他：ADS 特別セッションについて（岩崎先生）

・9 月 13 日に 4 部会合同の ADS 特別セッションが開催されたことが報告された。ADS 研究、原研・核変換実験施設等を支援して欲しい旨のお願いがあった。